

教科担任制の取組について

東広島市立板城小学校

1 令和5年度教科担任制授業計画

| | 理科 | 音楽科 | 外国語科 | 図画工作科 | 家庭科 |
|-------|----|-----|------|-------|-----|
| 5年1組A | 推進 | 専科 | 専科 | 担任A | 担任B |
| 5年2組B | 推進 | 専科 | 専科 | 担任A | 担任B |
| 6年1組C | 推進 | 専科 | 専科 | 担任C | 担任D |
| 6年2組D | 推進 | 専科 | 専科 | 担任C | 担任D |

専科授業

担任による
授業交換

2 有効であった取組

(1) 授業の質の向上

○ 教材研究の充実

- ・1回目の授業で、流れや児童の反応、時間配分等を振り返り、改善した上で2回目の授業に臨むことができている。
- ・理科では、事前の実験準備を適切に行うことで、教師による演示実験ではなく、一人一人が実験、体験できるようにしている。欠席児童にも、次時で実験ができるようにしている。そうすることで、児童に実感をもたせることを意識して授業を進めている。
- ・複数学年の理科授業を担当しているため、系統性を意識し、単元を見通した指導ができる。

○ 専門性による児童の興味・関心の喚起

- ・市教育委員会主催の「科学の芽育成講座」に応募し、各学年の単元末に学習内容の発展として大学教授による授業を依頼した。4年生、5年生、6年生で講座を実施。



6年「宇宙に生き物はいるの」



4年「手作りロケット飛ばそう」

(2) 多面的な児童理解

○ 学年団での生徒指導体制の確立

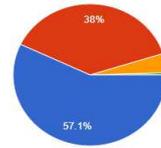
- ・生徒指導が必要になった際に、学級担任は、専科、教科担任制推進教員の授業時間を活用することで、児童に余裕をもって向き合う時間を確保し、適切に指導を行うことができた。
- ・学級担任、専科、教科担任推進教員等、複数の目で児童の指導に当たることで、生徒指導に関する状況等を多角的・多面的に把握することができた。
- ・全職員で配慮の必要な児童についての確認、具体的な場での対応等、共通理解を図っているが、専科を含め、授業交換を通して、児童個々の実態やその場に応じた配慮、支援が図れている。（複数で学年の児童に関わり、気になることがあれば、情報交換・交流をその都度行う。）

3 成果と課題

① 成果

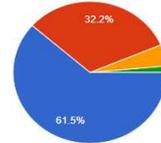
- 授業改善、授業力向上の実感（教師）
- 教科担任制で学ぶことを肯定的に捉えている児童の割合（6月）
 - ・「教科担任制になって、勉強の内容がよく分かるようになりました。」
肯定的な回答の割合 94.8%
 - ・「教科担任制になって、分からないことや困ったことを相談できる先生が増えました。」
肯定的な回答の割合 89.6%
- 前期末理科授業アンケート結果（9月）
 - ・「授業の内容がよくわかる。」
肯定的な回答の割合 95.1%
 - ・「授業の進め方はちょうどよい。」
肯定的な回答の割合 93.7%
- 行事の時だけでなく、授業を通して児童の様子を共通理解しておくことで、配慮の必要な児童等、互いに共感し合いながら対応することができている。また、学年全体で児童を育てる意識が向上し、一体感が醸成されてきている。児童も「担任以外とコミュニケーションがとりやすくなっている」と回答している割合が高い。

1 授業の内容がよくわかる。
205 件の回答



● そう思う
● ややそう思う
● あまりそう思わない
● そう思わない

2 授業の進め方はちょうどよい。
205 件の回答



● そう思う
● ややそう思う
● あまりそう思わない
● そう思わない

②課題

- 学力調査等での経年比較ができていないため、学力定着の数値的な成果を十分に見取ることができなかった。
- 教科等横断的な学びの視点から単元構成等を見直したり、担任との連携を行ったりする必要がある。
(ex) 5年理科でのデータ活用「平均」の扱い⇔算数科「平均」
- 学校行事等による変則的な時間割の変更→学年担任間、専科・推進担当で調整を行った。
- 担任の専門性や得意な教科等による教科担任制を推進するとともに、行事等による変則的な時間割変更等、カリキュラムや組織体制を見直す必要がある。